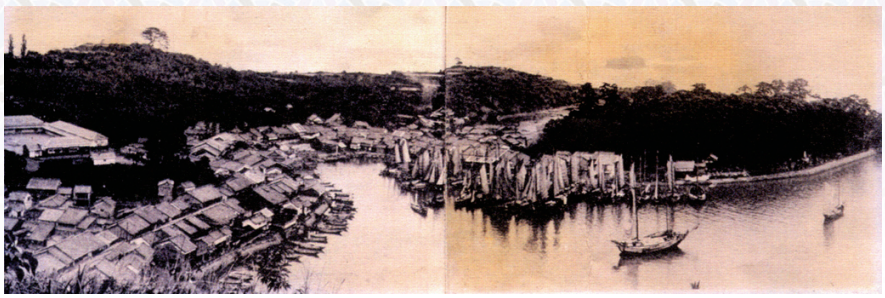
「室の泊（室津漁港）」　兵庫県たつの市



室の泊（年代不詳）

室津漁港は、「播磨国風土記」にも、名前の由来となった「この泊まり風を防ぐこと室（むろ）のごとし」という記述があるように、三方を山に囲まれた天然の良港で、奈良時代には僧行基によって「摂播五泊」（難波津から瀬戸内海を通り、九州、中国へ行く時、摂津の国と播磨の国に舟を停泊するための五つの港）の一つに定められたとされる歴史ある港である。

寛永 12 年（1635）に参勤交代が制度化されて、九州・四国・中国地方の西国大名は、瀬戸内海を船で渡り江戸に向かった。その経路に位置する室津は、最多時には 6 軒の本陣を構え、海の宿駅として大いに栄えた。本陣は、一宿一軒が原則であったので、全国的にもめずらしいことであった。それぞれの本陣は、一津屋、肥前屋、薩摩屋、筑前屋、肥後屋、紀伊国屋という屋号で呼ばれたが、昭和 40 年代にすべて姿を消してしまった。

そして、中世から近世に繁栄した港町室津のシンボル的な存在で、室津発展の礎となったといわれるのが、賀茂神社である。平安時代から海路の安全を見守ってきた賀茂神社は、京都上賀茂神社の社領 42 所のひとつとして、約 800 年前の姿を現在に止めている。歴史的に貴重な遺構で、本殿など八棟は国の重要文化財に指定されている。また、諸大名からの寄進による現在の銀行のような銀元制度まであり、商人はここで金を借り、船を仕立てて大きな商売に挑戦し、大名にまで金を貸しつける豪商も誕生したといわれる。境内からの海景は、江戸後期にシーボルトが日本で見た最も美しい景色、と絶賛したことで有名であるが、かつては海上の船から拝殿越しに本殿が見え、船上からも参拝できたといわれている。

みどころ

- **室津民俗館：海産物問屋として富をなした豪商「魚屋」の建物で、脇本陣としても使用されたといわれる。昭和 60 年に町立資料館として開館し、江戸時代の古地図や魚屋関係資料などを展示する。県の重要有形文化財でもある。☎ 079-324-0650**
- **室津海駅館：廻船業で富をなした豪商「嶋屋」の建物を修復し、平成 9 年に町立資料館として開館。海の宿駅として栄えた室津を知るための、廻船、参勤交代、江戸参府、朝鮮通信使の関係資料を展示する。☎ 079-324-0595**
- **魚々市（とといち）：室津漁業協同組合が毎週土・日曜日の 10:00 ～ 14:00 に開く直売市で、新鮮な魚の他、漁師のお母さんたちがつくるお弁当を販売 ☎ 079-324-0231**